

氏名・(本籍)	竹之下 真一 (鹿児島県)
専攻分野の名称	博士(医学)
学位記番号	医博甲第 1109 号
学位授与の日付	令和 6 年 3 月 22 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研究科・専攻	医学系研究科医学専攻
学位論文題名	Scale Development for “Great Research Mentors” and Its Relationship to Mentees’ Psychological Burnout in Young Physician Researchers (若手医師研究者における「優れた研究メンター」の尺度開発とメンティーの心理的バーンアウトとの関係)
論文審査委員	(主査) 長谷川 仁志 教授 (副査) 中山 勝敏 教授 及川 沙耶佳 教授

学位論文内容要旨

Scale Development for “Great Research Mentors” and Its Relationship to Mentees’ Psychological Burnout in Young Physician Researchers

(若手医師研究者における「優れた研究メンター」の尺度開発とメンティーの心理的バーンアウトとの関係)

申請者氏名 竹之下 真一

研究目的

日本の深刻な医師不足が長期化している現状では、短期間に医師研究者を増やすことは現実的ではなく現状のリソース活用が必須である。その中でも、若手医師研究者の育成において研究メンターの役割は重要である。そこで本研究では、1) よき研究メンターの特性を測定する尺度を開発し、2) 開発した尺度の妥当性を検証することを目的に、競争的研究助成金を獲得した若手医師研究者達におけるメンティーの心理的バーンアウトとの関連を検証した。

研究方法

本研究は 2015 年に、2014 年から 2015 年の間に新規の若手科学研究助成金を獲得した医師研究者 258 人を対象に自記式アンケート調査をおこなった。優れたメンターの尺度開発に際して、著者達は医師、研究者、看護師などの医療従事者からなるタスクチームを構成し、研究メンターの特性に関する 35 項目のアンケートを作成した。この項目を対象者に 5 段階で回答してもらった。なお、本調査においてはメンターを、特定の専門研究分野において、メンティーを指導する経験や知識が豊富な人と定義した。参加者に 2 人以上のメンターがいる場合は、本研究の時点で主要な研究メンターの特定をお願いした。

アンケート調査ではメンティーに関する項目(年齢、性別、労働条件、研究タイプ、研究メンターの有無、配偶者の有無、診療科、勤務先の種類、1 週間の勤務時間、医師経験年数、医学博士の有無、認定医の有無、フェローシップ修了の有無)、メンターに関する項目(性別、所属、面談頻度、メンターとメンティーの関係性)、現在のメンターに対する満足度、Copenhagen Burnout Inventory 等を質問した。優れた研究メンターの尺度開発は因子分析を用いて行った。開発した尺度のどの特性が、Copenhagen Burnout Inventory で測定した心理的バーンアウトレベルの低下と関連するかを単変量解析および多変量線形回帰モデルを用いて解析をおこなった。

研究成績

優れた研究メンターの尺度開発はバリマックス回転を用いた因子分析で行い、16 項目からなる 3 つの因子が見出された。3 つの因子は、「良好な信頼関係の構築」(6 項目、Cronbach alpha=0.889)、「研究におけるメンターシップ」(6 項目、 $\alpha = 0.853$)、「確立された権威あるメンター」(3 項目、 $\alpha = 0.882$) とした。バーンアウトとの関連については単変量解析および多変量線形回帰モデルによる解析を行った。多変量線形回帰モデルの解析結果、「研究におけるメンターシップ」は、個人的バーンアウト ($\beta = -6.25$, $p = 0.014$) および仕事に関連するバーンアウト ($\beta = -4.76$, $p = 0.029$) と逆相関し、「良好な信頼関係の構築」は、患者に関連するバーンアウト ($\beta = -4.91$, $p = 0.014$) と逆相関することが示された。

結論

本研究では、若手医師研究者における研究メンターの尺度開発を行い、15 項目から成る 3 つの因子が抽出された。高い Cronbach alpha より信頼性 (reliability) が、バーンアウトとの高い相関より併存的妥当性 (concurrent validity) が得られたと考えられた。

学位（博士一甲）論文審査結果の要旨

Scale Development for “Great Research Mentors” and Its Relationship to Mentees’ Psychological Burnout in Young Physician Researchers

（若手医師研究者における「優れた研究メンター」の尺度開発とメンティーの心理的バーンアウトとの関係）

主査 長谷川 仁志
申請者 竹之下 真一

要旨

著者の研究では、優れた研究メンターの特性を測定する尺度を開発し、開発した尺度の妥当性を検証することを目的に、競争的研究助成金を獲得した若手医師研究者達におけるメンティーの心理的バーンアウトとの関連を検証している。

2014年から2015年の間に新規の若手科学研究助成金を獲得した医師研究者258人を対象に自記式アンケート調査をおこなった。医療従事者からなるタスクチームにより研究メンターの特性に関する35項目のアンケートを作成し、対象者から5段階で回答を得ている。それでは、メンティーに関する項目（年齢、性別、労働条件、研究タイプ、研究メンターの有無、配偶者の有無、診療科、勤務先の種類、1週間の勤務時間、医師経験年数、医学博士の有無、認定医の有無、フェローシップ修了の有無）、メンターに関する項目（性別、所属、面談頻度、メンターとメンティーの関係性）、現在のメンターに対する満足度、Copenhagen Burnout Inventory等を質問した。優れた研究メンターの尺度開発は因子分析を用いて行い、開発した尺度のどの特性がCopenhagen Burnout Inventoryで測定した心理的バーンアウトレベルの低下と関連するかを単変量解析および多変量線形回帰モデルを用いて解析した。

優れた研究メンターの尺度開発はバリマックス回転を用いた因子分析で行った。16項目からなる「良好な信頼関係の構築」（6項目、Cronbach alpha=0.889）、「研究におけるメンターシップ」（6項目、 $\alpha=0.853$ ）、「確立された権威あるメンター」（3項目、 $\alpha=0.882$ ）3つの因子が見出された。バーンアウトとの関連について多変量線形回帰モデルの解析結果、「研究におけるメンターシップ」は、個人的バーンアウト（ $\beta=-6.25$ 、 $p=0.014$ ）および仕事に関連するバーンアウト（ $\beta=-4.76$ 、 $p=0.029$ ）と逆相関し、「良好な信頼関係の構築」は、患者に関連するバーンアウト（ $\beta=-4.91$ 、 $p=0.014$ ）と逆相関することが示された。「確立された権威あるメンター」は、相関を示さなかった。

1) 斬新さ

過去の研究では、優れたメンターとメンティーの間の良好な関係を構築するための潜在的な重要な要因を質的に明らかにしているものがあるが、どの因子が優れたメンターになるために必要なかを定量的なデータを使用して示している研究はなかった。本研究は、メンティーから収集した定量的なデータを使用してチェックリストを開発した初めて検討しており斬新な研究である。

2) 重要性

「良好な信頼関係の構築」および「研究におけるメンターシップ」のスコアは、心理的バーンアウトの低いレベルと関連していることを示した。優れた研究メンターの特性を測定するチェックリストは、現在アカデミアで働いているメンターとメンティーにとっての自己モニタリングツールとして実装でき、メンティーの心理的健康に肯定的な影響を与えるメンターの特性を理解し、メンター-メンティー関係に何が不足しているかを評価するために利用できること、将来のメンターとなる個人はメンティーの心理的バーンアウトを防ぐために必要な重要なメンターの特性を知るためにこのチェックリストを参照できることなど、将来の研究充実に向けて、本研究の重要性は高い。

3) 研究方法の正確性

本研究の評価は、いずれも確立された方法であり、正確に統計解析している。

4) 表現の明瞭さ

これまでの課題の解決するための研究目的、方法、結果、考察、さらには研究結果解釈の留意点を簡潔、明瞭に記載している。

以上述べたきたように、本論文は学位を教授するのに十分値する研究と判定された。